

### 第3回 健康くまもと2.1推進会議がん部会

開催日時 平成26年7月3日(木) 14:30~16:50

場所 熊本市役所 議会棟2階 議運・理事会室

出席委員 12名(五十音順・敬称略)

(裏前 幸美、浦本 和子、大森 久光、川瀬 修一、小山 和作、斎藤 和則、  
谷口 千代子、西 哲司、野間口 寿子、松山 正明、山形 繼司、山口 卓雄)

傍聴者 1名

次第 1 開会

2 部会長挨拶

3 報告 熊本市がん検診受診率経年推移について

4 議題 (1) がん検診受診率向上等に向けた取り組み計画について

(2) 取り組み計画における今後の進捗管理について

(3) その他

5 閉会

#### 《大森会長》

はじめに、報告として熊本市がん検診受診率経年推移について事務局より報告をお願いしたい。

#### 《事務局》

参考資料1に基づいて報告する。資料は平成18年度から平成25年度までのがん検診受診率の推移を示している。この推移は対策型として熊本市が医療機関に委託して実施している5つのがんの受診率の推移である。下のグラフをご覧いただきたい。それぞれのがんの推移をご説明すると、子宮頸がんと乳がんについては受診率には差があるものの同じ推移をたどっている。平成20年度・21年度の合併と、21年度の子宮頸がん・乳がん無料クーポン事業を開始したこともあり5~6%の受診率の向上が見られているが、ここ最近は微減の状況である。

肺がんはここ数年同じように微減の状況が続いている。一番受診率が低い胃がんは横ばいの状況である。

大腸がんは平成22年度に特定健診とセットで受診できるようになったことと平成23年度の無料クーポン事業を開始したこともあり4%程度の受診率の向上が見られているが最近は微減の状況となっている。

対象者数、受診者数の詳細は上の表をご覧いただきたい。受診率も5つそれぞれのがんにおいて昨年度に比べて低下している。受診率の算定については母数となる対象者数をどう見るかという点が悩ましいところである。国は国勢調査に基づく人口から就業者を除くと

といった一定の算出方法を示しているが母数は国勢調査の結果を基にすることから、数年はこの母数が変わらないという状況で受診率の算定をしていくということになる。こういった算定の方法に基づき資料を出しているが、このなかには職域におけるがん検診や、人間ドックなどの受診者が含まれていない。そのため行政の実施するがん検診以外の受診状況も把握するという目的で数年おきにアンケート調査を実施している。平成21年度には熊本市のがん検診等に関するアンケート調査、平成23年度には健康くまもと21アンケート調査を実施していて、その結果から見るとそれぞれのがんで多少の違いはあるが行政が実施する対策型がん検診も含めて30%~40%の受診率が推測される。今後もアンケート調査を行い受診者の実状と、推測ではあるがより現実に近い受診率の把握に努めたいと考えている。

#### 《大森会長》

肺がんを始めとする5つのがん検診の受診率の推移の説明があったが、現在の算出方法では把握できない部分がありそれを補う形でアンケート調査を行っているという現状である。微減という状況ではあるがこれを今後どのようにして上昇させていくか、ひいては熊本市におけるがんによる死亡率減少というところまで持っていくたい。

次に議題1のがん検診受診率向上等に向けた取り組み計画について議事を進行したい。議事1については資料1-1と1-2にそって進めていきたい。1-1は4月に委員の皆様にがん検診受診率向上に向けた取り組み調査に御協力頂いたものをまとめた表である。1-2は3月のがん部会時に承認された行政の立場での取り組み表である。この計画表について各委員の皆様、熊本市関係課それぞれから重点取り組みを話していただきたい。各委員から提案していただいた1~9位の中でも今年度中に実施したい取り組みや特に力を入れたい取り組み、あるいは目玉になるもの、それぞれの立場で現在行正在らっしゃるようなことも含めて発表していただければと思っている。また熊本市の関係課の皆様には今年度の取り組みに関して発表いただければと思う。各方面から一致団結して熊本市の市民の皆様へ啓発を進めていくということになると思う。

まず私の方からお話をしたいと思うが、表の方には一行ずつ書かせていただいた。1-2の資料の行政の方々にご提案があった内容を参考に記載させていただいた。大学に勤務するという立場からこのがん検診の啓発と検診受診率の向上に向けてどのようなことができるかということだと思う。まずはがんに関する正しい知識と理解という点で、私はCOPDの啓発ということで以前がんに関する講演会の開催させていただいた。引き続きこの講演会などで御協力させていただければと思っている。また、講演やラジオ出演など啓発の機会をとらえて啓発していきたいと思っている。お手元の資料にあるように7月21日月曜日にわくわく健康塾として、「知ってください乳がんのこと」ということで乳がんの専門の先生と、患者さんの体験を踏まえた形で啓発の機会を熊本市の方で設けていらっしゃるので、こういった形で私がお手伝いできる機会があれば今後もやっていきたいと思っている。

また地域広報誌がいろんなところで出されているのでこういった内容に関する専門的な立

場で関与させていただければと思っている。すでに熊本市のがん検診のご案内ということで前回の会議のときに資料としてお示しされているが、そういうものを上手く利用して市民の方々にご案内していきたいと思う。また校区単位の健康まちづくり展開ということで健康づくりサポーターとの連携という項目がこのなかにあったのでそういうところでも大学として関与できればと思うし、職域や保険者の方々と連携を強化していきたいと思っている。産業保健に関する分野でも関係機関と連携をとりながら市民の方々に啓発する機会を増やしていきたいと思っている。また医師会の先生方とも連携をとっていきたいと思っているし生活習慣病ネットワーク連絡会等もあるということなのでそういう機会を利用していきたい。また各大学間で教育に携わる立場として若い世代への教育にも取り組んでいきたいと思っている。

#### 《山口委員》

医師会の立場から関与できることとして私なりに書いた。現在行われている事を中心に、今後すぐにでもできること、あるいは将来の希望のようなものも書いている。がんに関する正しい認識という点においては、地域医療センターの外科・内科の先生方が定期的に市民公開セミナーを行っていて各医療機関の方に案内しポスターなどを提示しているので、そこにできるだけ多くの方に来てもらい提供していきたいと思っている。

2番の効果的な広報については、住民健診・がん検診の状況などがここに書いてあるがその中でも実際どのくらいの比率でがんの患者さんが見つかっているのか、そのうち早期がんの方が多く、そのおかげで開胸・開腹という大きな手術ではなく腹腔鏡や、胸腔鏡手術といった比較的簡便にできる手術が増えたといったことや、乳がん・子宮頸がんにおいても少しとるだけで済む縮小手術でいいというようなことで検診の有効性を出していただけたらと思う。

受診方法の周知については現場においてなんらかの症状があつて検査をする場合もあるがしない場合、がん検診を受けましょうということを言っている。特に内科の先生方については乳がん子宮頸がん検診を特定健診の受診時に案内していくといいと思う。熊本市が作っておられる検診のご案内は非常に有効だと思うのでそれを置いてもらい配っていただくようにお願いしたい。

また前に花園校区の方が言われたように我々が校区単位の健康まちづくりに前面に出て行くといけないということもあるので自発的にしていただくためにアドバイスや手助けをしながら関わっていきたいと思う。未受診者の受診勧奨については行政の仕事であると思われるが、実際に受診した方が本当に精検を受診しているかというのが更に問題があるのでこれについては総合保健センター・ヘルスケアセンター等の担当者が受診勧奨を更に勧めていくといいと思う。

#### 《谷口委員》

私は地域包括支援センターの連絡協議会という立場で参加していて対象者は65才以上の高齢者ということになるが地域で保健師さんたちと健康活動などを行っている。そういう

たときに保健師さんの手助けという形でいろんなイベントのときにパンフレットを使用して PR 活動をしていけたらと思っている。効果的な広報については前回お話したように中央区及び市全体のキャッチフレーズとかを公募して表彰などを行って、意識を高めるというようなことはどうかというようなことを書かせていただいた。また健康まちづくりの活動については各小学校区単位で進められていて年に 1 回は報告会などもされているのでそういう場で PR をしていただけだと良いのではないかと思っている。

また地域包括支援センターでは平成 23 年に地域ケア計画というものを地域の方々と課題を出しながら作った。今年度その見直しをするということでそのためには地域の役員さん方と地域の課題について話をしていくので、その時にがんやがん検診受診についての健康課題の情報を持ちながら情報の共有をして課題として挙げていけたらいいと思う。また受診方法についてはパンフレットを用いて会合の場などで PR ができればと思っている。校区単位の健康まちづくりについてはそれぞれの校区でいろんな取り組みがあるのでそれぞれの特色を活かしながら地域の方たちと一緒に進めていけたらと思っている。

また企業等に積極的にがん検診受診率向上を働きかける、と書いたがそれが職場で働いているので健康について職場の方でもご理解していただきたいと思う。

未受診者への受診勧奨については昨年親子さんとの関わりの中でお話が出ていたが、子どもがいろんな会合に参加すると親はついてくるということで、子どもたちにがんの事について説明をすると親にも話がいって、親も関心を持つようになると思うので保健師さんたちと一緒に進めていけたらと思う。あとはイベントで学生さんと研修会を開いたりするのと同時に健康のことについて話をしていくといいと思う。

#### 《川瀬委員》

私は保険者協議会というところから出ているが、健康保険組合にいるので健康の方を中心にお話をさせていただきたい。がんに関する正しい認識と理解については、生活習慣病セミナーというものを 7、8 回行っている。その中で生活習慣病についてはもちろん、がんに関しても理解していただくようにお話をさせていただいている。また協働事業の中で生活習慣病の特定保健指導で保健師さんが事業所を訪問している。その中でがんに関して早期発見の必要性の話をさせていただいている。事業所の被保険者の方の受診率は良いが家庭の奥様方に案内を出してもなかなか受診してもらえない。これは特定保健指導に関してもそうだが受診率がかなり低い。そのことに関しては校区のイベントなどを活用していろんな情報を集めてほしいとお願いして、その中でよければ受診してくださいというようにいろんな方法を使っているが、今の奥様方は今は健康だからということでなかなか受診していただけないのでこれがひとつの課題である。人間ドックは 35 才以上は全て受診可能だが被扶養者の方の受診率はかなり低いし、主婦検診もやっているがなかなか受診率が上がっていないという状況である。いろんな手段を使って説明をしてはいるがなかなか理解していただけない。特に若い人はそうである。ひとつの保険者だけでは受診率を上げるということは難しいが連携がとれるところがあれば協力してやっていただければ良いかと思う。

### 《斎藤委員》

協会けんぽではご存じのように職域における加入者の健康づくりに向けて一歩前に出るという概念で、保健事業を柱にして旧社保庁から独立したということで 6 年目を迎えたところである。その保健事業の柱にはまさしく加入者の皆さんに対する生活習慣病健診がある。それから被扶養者に対する特定健診もひとつの柱である。これらのいろんな柱を徹底し、とにかく多くの方々に受診をしていただくということを重点的に進めていくものである。一本目の柱である生活習慣病健診は労働安全衛生法の事業者健診も含んでいる。また本日の部会の目的で申し上げると健診項目においてこのがん検診の項目も包含している。さらに事業主健診と同程度のコスト負担ができるということを訴えて検診を受けない手はないということで 47 都道府県の支部が受診率のアップに向けて競争しながらやっているところである。本日お配りしている健診・保健指導のガイドブックなども労働局の監修も受けながら作成して事業所の説明会等で活用している。例えば、4 ページにあるように各事業主に義務化されている労安法に基づく事業主健診の項目にはこのようなものがあるとか協会けんぽで行う健診にはこんな項目があるということが含まれている。一方で配偶者の皆様の特定健診は一昨年まで事業主を通じて奥様方に受診券を配布してもらうようお願いしていたが、手元に届いているのかどうか非常に曖昧な部分があったので、昨年から受診券を自宅直送に変えた。更に熊本市内の皆様には同封物として「特定健診・がん健診の大切なお知らせ」というものを入れている。これには熊本市がん検診についてもどんな検査をするのか、どういうところでどうやって受けるのかというところまでご案内している。問い合わせも非常に多くきているので、今後もしっかりと啓発をしていきたいと思う。

効果的な方法については、皆さんも参加されたかもしれないがリレーフォーライフに積極的に参加して夜通し歩き、訴えた。そういうイベントなどにも参加している。また昨年熊本市の方と健康づくりの包括協定を結ばせていただき、その中で共同で広報を行うということで、効率的な広報のやり方と一緒に進めさせていただきたいと思っている。また特定健診やがん検診が同時に受診できる集団検診の実施についても連携して進めていただこうという準備をしている。

その他にも職域における労働局との連携、あるいは医師会・歯科医師会・薬剤師会との連携、また熊本市と連携して横の展開をしっかりとしていきたいと思っている。

また記載はしていないが私どもの加入者は県内 23,000 の中小企業の事業主さんで、この事業主の方々にいかに健康づくりを徹底していくのかということに非常に苦心している。その中で従業員の皆様が健康でいるということは生産性、合理的につながっていく、企業の発展につながっていくという健康経営という概念を広めているところである。昨年の 11 月に事業主の皆様に集まっていただき健康経営セミナーというものをやった。今年度も職域でスマールチェンジ運動といって「健康力こそ会社の力だ」というタイトルで運

動を展開しているところである。事業主の皆様方の意識と健康づくりの為にできるちょっとしたことから取り組んでいただきたいということを柱に進めているところである。

#### 《小山委員》

手元の資料には2項目で書かせていただき、ひとつは日赤熊本健康管理センターの名誉所長という立場で、もうひとつは日本がん予防協会の理事長としての立場で書いている。既に色々手は打っていて、今までやってきたつもりだがなかなか伸びていない。さきほどのデータを見ても非常にさみしく思ったが微減している。伸びていてもわずか20%と大変お粗末なものである。先程のアンケート調査をした結果では40%くらいいっているのではないかということだったが2月にモスクワに行ったとき日本のがん予防の最前線ということで講演をし、がんの診断と治療における最先端の医療を紹介するということでお、予防の話をした。ずいぶん反響もあったが、質問があつて日本のがん検診の受診率は何%かと聞かれたときにはドキッとした。正直に言わなくてはいけないので、政府が把握しているのは2割だと言うと、検診の紹介をしている医療の最先端の日本で2割しかないのかといった反応だった。しかし日本というのは医療保険制度が非常に徹底しているので保険を使って受けている人たちがいて、自分のかかりつけの先生のところで受けているだろうし、あるいは人間ドックなどで受けている人などもいて推測ではあるが少なくとも5、60%は受けているはずだと言った。そういうわざるを得ないのもきちんとした数字がないからである。実際に受けている数がどうしてつかめないのか、協会けんぽに属している人や国保の方などきちんと調べれば出せるのではないか。熊本市の方でどれくらいの方ががんにかかり、どれくらいの方ががんで亡くなっていて、どれくらいのがんだったのかというのは医師会の方でも出しているので、それをもっと徹底すればできるはずだ。国が推進しようとしているのにそれに取り組まないのは非常に残念である。予算は組めるはずだと思う。子どもたちに話すというような教育的な話も含めて言えば教育委員会も一緒になってやるということだろう。食育や食の安全安心の問題もあるし流通や生産の問題、農林水産関係から金融・産業も関わってくる。熊本市で健康特区というものを作つてそれをやろうと打ち出していただければできるのではないかということを提言したい。

また今既にやっているのはバスに「がん予防をしましよう」というラッピングをして走らせるのを日赤の方でやっている。またがん予防協会の方でもやろうと思っていて協力機関を募っているが各医療機関にお願いしてもなかなか協力が得られない。がん部会の名においてこういったことをやれば、部会の皆さん方も協力できるしやっていかないといけないと思う。他にやっていることを具体的に申し上げるとトイレットペーパーに大腸がん検診を受けていますか?と印刷していろんな企業や病院や行政機関などのトイレに置いておくと使うときに自分は受けていないなということに気付いたりするので、配布する予定である。またマスコミと一緒に連携しながらイベントを行い、若者たちを参加させると若者たちが広めていってくれる。今までそういった人たちはあまり集まっていないし、熱心な人やがんにかかった人たちや家族の人しか来なかつた。そうではなくて今全く無関

心の人たちをどう呼ぶかということである。そのためには一つの方法として若者が好きなタレントを呼んで、がん検診を受けた人は無料で入れるというようにするとがん検診の受診率が上がると思う。これはひとつの例だが知恵を出しながら他の県や市がやらないようなことをやってみたらどうだろうか。パンフレットも結構だがもしこれが折込チラシできたら場合にはパッと見て捨ててしまう。もったいなくて捨てられないような立派なものを作る必要がある。そういうものを作るためににはお金が必要であるがいろんな知恵を出せば確保できるのではないだろうか。

《松山委員》

熊本市商工会議所は現在法人・個人含めて6,300の会員がいる。この会員に向けて毎月会報誌を発行している。その中で行政関係含めていろんな情報を載せている。私たちも会員に対しての福利厚生には力を入れていて、適切な情報を流すことは非常に重要であると認識している。健康づくり推進課の方からタイムリーな情報をいただくと積極的に会報誌に載せていいきたいしホームページ等も利用しながら周知を図っていきたいと思っている。ひとつ気になったのが資料の1-2の北区と南区の取り組みの中で商工会との連携というのが出てくるが、残念ながら商工会議所との連携というのは出てこない。これはおそらく北区と南区では合併前に地元の商工会と連携しておられたのかということだと思う。会議所としてもいろんな形で御協力したいので健康づくり推進課のところに商工会議所との連携ということを入れていただければ良いかと思う。

《大森会長》

健康づくり推進課の取り組みの所に商工会議所との連携ということをいれてほしいということでおろしくお願いしたい。

《野間口委員》

中央区では昨年度から向山校区ふれあい健康ウォーキングクラブというものを立ち上げて健康づくりの活動をしているということを以前報告させていただいたが今年度も引き続きその活動を実施している。6月29日に第一回のウォーキング教室を開いた。その時に担当の保健師さんにパンフレットをたくさん持ってきてもらい参加者に配ってきていただいた。また、民生委員や自治協議会の分もパンフレットを準備していただき自治会長さんや各種団体の長の方、民生委員さんにもパンフレットを配って検診を受けましょうと案内していただいた。私たちの方ではそのパンフレットを一部ラミネートしてコミュニティセンターのロビーに常時見られるように置いている。地域では向山瓦版というものを出しているがそこでも「特定健診を受診しましょう」という文を入れさせていただいた。ウォーキングクラブの時に保健師さんがうちの校区の検診の受診率は若干上がっているということを報告していただき拍手があがった。参加している方の中から毎回検診を受けましょうと言ってくれるので検診に行ったという声があつて嬉しかったという保健師さんの言葉にまた拍手があがったりして少しずつ校区の中に広まっているということだと思っている。これを中央区全体に広めてもらえるといいと思っていて、この間中央区の健康まちづくりを

している団体が集まって情報交換をしようという会議を設けていただいた。そこでもいろんな健康づくりをみなさんされていて受診率の向上を中央区全体で取り組んでもらいたいというお話をした。先日江津湖で開かれた食と健康フェアに行ったが小山先生の言われたような大腸がん検診を受けましょうと印刷されたトイレットペーパーをいただいた。それは外側だけに書いてあるのかと思ったら 1 ロール全部に書いてあってすごいなと思ったので、是非うちのコミュニティセンターにも置いてあると利用される方となるほど思ってくれるのではないかと思った。熊本大学のお手洗いでも置いていただくと学生も利用するときにインプットされるのではないだろうか。

#### 《山形委員》

先日平成 25 年度の健康まちづくりサポーターの講習が終わって今そのフォローアップ講座というものを 3 回ほど計画しているがそこで検診の受診率をアップさせるためのアイデアはないかと働きかけをした。年齢的に前期の高齢者ということでまだ元気に動ける方はかりなので健康まちづくりサポーターになっていながら、関心が薄いかなというところが見受けられる。がんの部会に入っているので今後も引き続きやっていかないといけないのでご協力をお願いしたいということは申し上げている。

健軍川沿いでウォーキングをしている人たちの参加人口がすごく多く、月出校区で菜の花ウォーキングという取り組みを毎年やっていて、その方たちが一堂に会してウォーキング大会をしている。そこに保健師さんに来ていただきて始まる前の健康診断をしてもらい、パンフレットを配らせてもらって皆さんに周知していただいている。月出校区の PTA で 30 代の検診のモデル事業をやってその中で受けさせていただいた方は 2 年間にまたがってやつてもらった。そういう方々の検診は確かに増えるので何らかの働きかけをしていくことが大事だと特に思った。

また近所にある医療機関にかかりつけ医を持つというのがまだ若い人には届いていないのではないか。どうかあるときにどこに行くかといったときに大きい病院しかみんな頭にならない。そうではなくてもっと近くのクリニックともっと仲よくなつて調子が悪いときに相談できる先生がいらっしゃるかどうかというのがその人にとって貴重な財産となると思う。そのあたりのところをもっと徹底していかないといけないと思った。

#### 《浦本委員》

がんに関する正しい認識と理解については、書いたとおり誰が見ても分かりやすいパンフレットをということでカラーで見やすいようにしていただければ PTA でも配れると思った。効果的・効率的な広報ということでは、資料をつけているが第 2 回城西フリーマーケットに西区の保健子ども課が参加して健康チェックをしたらとても好評で次々来場され、フリーマーケットの方にも非常に効果があった。行政と地域で行ったこのフリーマーケットだったが、すごく効果があつてこういったことをまたするときは西区の保健子ども課の方にがんの啓発のパンフレットなどを用意していただけると配れる。フリーマーケットにはお母さん方が大きな袋を持って来るので入れて持つことができ捨てられることは少な

い。そういうことも考えて、袋を持ってくるような企画のところで配れるというのがいい。また日赤の方から依頼があつて献血があるのでチラシを配ってほしいということだったが、そのあとあった献血では50人くらいの人がアップしたということだった。そのようにすごく効果を実感したところだった。最後の提案としてテレビで特集番組をというのは可能かどうかは分からぬがタレントさんが病院に行って受診している様子を取材するとか具体的な内容の特集番組があればいいと思う。現にこのフリーマーケットの周知は英太郎さんの「かたらんね」に出演させていただいてPRした。くまモンのブログにもこのフリーマーケットのことが書いてあったので遠くは大阪からも来られていて買い物もしていただいた。「かたらんね」を見た方では大津や菊池からもいらっしゃっていて非常に効果があったのでこういう場で広報をするのがいいと思った。

今年度は身近に実行できる取り組みとして地域とPTAと西区行政が三位一体となった広報活動をスタートさせたいと思ってパンフレットを欲しいといえばもらえるだろうが今年度の分はもうきまっているのか。

#### 《事務局》

前回の会議のときに平成26年度のがん検診に関するパンフレットを紹介したときに、皆様から色々なご意見をいただいたが、それに関しては毎年の内容の見直しを若干させていただき各年度のパンフレットとして活用させていただいている。また他のパンフレットも数種類あってそのあたりの見直しも今年度していきたいと思っている。

#### 《浦本委員》

先日郵便で送られてきた連携シートが有効活用できると思うが今後連携が必要な関係機関をピックアップし、協力を依頼したいと思っている。現在考えている関係機関は自治協議会、まちづくり部会、小学校、中学校、高校で、協力を依頼しようと思っている。また西区PTA自治会の定例会というものがあるのでそれに参加させていただいて協力を依頼する予定をしている。西区のPTA会長と市のPTA担当副会長が全員出席する予定の定例会なので周知及び依頼が一度にできるという利点がある。まずは保護者と先生方へ向けてリーフレットやパンフレットの配布をお願いしたいと思っている。早速始めたいとは思うが一度にいろんなことをすると混乱するので一歩ずつ進めて発展させていくべきと思っている。また城西校区では島崎繁栄会主催の島崎サマーフェスティバルというのが8月に石神山公園で開催されるので、そこに西区保健子ども課のブースを設けてもらうことはできないかと思っているので西区保健子ども課と島崎繁栄会の会長に打診しようと考えている。

#### 《裏前委員》

昨年まで健くま21推進市民会議という団体の方で活動をしており、健康づくりくまもと市民応援団という独立した形で熊本市民の皆様の健康づくりのお手伝いをさせてもらっていたので南区の代表というよりそちらの立場としての意見になるが、まずは応援団の部員がそれぞれ個人的にがんに関する情報を調べていろんな講演会に出向いたりテレビなど

でいろんな情報を把握して分かりやすいパネルなどにするといいと思う。

広報については若者にもがん検診の推進をしていきたいので Twitter やブログなどを利用してコンテンツづくりをしていくといいと思う。そのコンテンツの中にがん検診を受けて良かったという体験談や辛かった体験などがつづられているようなものが携帯で見られるような広報の仕方が必要ではないだろうか。紙で配布するという方法もあるだろうが今はこのようなデジタル化した広報が必要になってくると思うし、実際に Facebook などをやっている方もいらっしゃるので応援団のほうでできればいいと思う。

3位のイベントブースなどで呼びかけるというのは、健康フェスティバルとかハーモニーフェスタの2大イベントと、11月に南区の方であるフェスティバルに参加をさせていただきその中で呼びかけを行いたいと思っている。健康フェスティバルでは毎年ウォーキングも行っていて、ただ歩くだけではなくその目的の中でがんを予防するというところからウォーキングを始めてみませんかという啓発の仕方もあるのかなと考えている。

私たちの応援団の活動の中で一番大事だと思うのは 5位の「校区単位の健康まちづくりの展開」というところで南区のみならず 5つの各校区の情報収集と連携をとりながら発信できる窓口として活動していくものなので連携という部分に力を入れていきたいと思っている。

9位のところは先程も触れたが皆さんのが捨てないようなチラシや、継続してみていくコンテンツづくりをして興味をひかせるようなものを考えていく必要があると思う。

#### 《西委員》

地域に絞って書かせていただいた。高平台校区には14の自治会があり、私のところは851世帯が住んでいて非常に大きな地区である。また少ないところではマンション1つだけのところもある。同じような規模ではないので非常にやりにくいところではある。毎月いろんな文書や回覧板が回ってきて多いときには12~3の資料が回っている。先程小山先生が言われたように、回覧板も上の人は見るが下の人は見ないこともあります非常に効果が薄い。また23年度には高平台校区の健康づくり推進協議会で特定健診のモデル校区としてやったが、やはり回覧板の効果は少なかった。色々なところに出かけて行って必要性についてお話ししさせていただくと、お年寄りの方々は結構知っています。病院にかかっているので同じような検査を年に2回くらいはしているということで特定健診に近い検診は皆さんされていた。健康づくり推進協議会の中でちびっこ IN 高平台というものがあつてお母さんと赤ちゃんがひとつの所に集まってゲームをしたりしていて、その時に北区の先生と保健師さんに来ていただいて血圧とか検尿、骨密度などの検査を8割の方が受けられて今までそういう機会がなかったので非常に良かったという声が聞かれた。また小学校から湧水公園まで歩いてウォークラリーをし、保健師さんが血圧をはかりいろいろ説明をしてもらうということもやった。またすべての団体が集まり研修をし、その他にも2回ほど小学校から中学校のPTAなどすべての団体で情報交換会を行った。そのように自治協議会が中心になって北区の保健師さんと連携しているので今後は大きなイベントにパネ

ルなどを持って行って啓発活動をしていったらどうだろうかと考えている。もう一点はそういういたイベントに全く出てこられない高齢者の世帯などにはパンフレットを配るとか回覧板で回すとかいったことが必要になってくるのではないだろうか。

《大森会長》

これまで各委員の方にこれまで取り組んできたこと、これから取り組みについてお話を聞いていただいたが、これを受けて行政の立場として健康づくり推進課の方からお話をいただきたい。

《事務局》

先程少しお話ししたが各種がん検診の周知を促すために様々なパンフレットを作成している。これらのパンフレットについてはがん検診の啓発のために窓口や各種の健康イベントで配布をしていて、例年であれば行政職員で内容の見直しをして増刷をしたりしていた。今年度はこのパンフレットを作成するにあたって取り組み計画の 6 位の職域及び保険者との連携や 9 位の若い世代への教育に関連するが、がん検診の協定を締結させていただいた団体であったり若い世代の方のご意見を取り入れて若干のリニューアルをしたいと考えている。もちろん予算の関係もあるので今のところ乳がん、子宮頸がん、大腸がんの 3 種類のパンフレットを今年度中に様々なご意見をいただきながらリニューアルを検討している。今後検討を重ねた上で印刷の発注ということになると思うので新しいパンフレットの納品は 10 月くらいになる予定と考えている。また取り組み計画の 7 位の未受診者への受診勧奨に關係して国の補助事業を活用して平成 21 年度から 5 才刻みの一定年齢の方に乳がん及び子宮頸がん検診の無料クーポン券と検診に関するパンフレット類を送付し、がん検診受診の促進を促していたというところで、平成 25 年度で対象年齢の方に一巡したということである。そこで今年度については同様に国の補助事業を活用して平成 21 年度から 24 年度の間に検診を未受診の方については改めてクーポン券を送付したところである。3 種類の色の封筒にクーポン券を同封して 6 月末に送付している。その中にクーポン券と一緒に検診を受けましょうというパンフレットも入れて受診を促している。対象者数は乳がんで約 62,400 名、子宮頸がんは約 61,700 名に送付している。昨年度までは対象者の考え方方が違ったので昨年度は乳がんが約 25,400 名に送付したので約 37,000 名程度増えている。子宮頸がんは約 23,300 名だったので約 38,400 名の方の分が増加している。今申し上げたのはあくまで検診未受診の方に再送付したという取り組みで検診を実際に受診されている方には継続して受診していただくことが必要になってくるので検診に関するパンフレット関係を 7 月末と 3 月末に分けて送付する予定にしている。7 月末には偶数年齢の方を対象に乳がん、子宮頸がんの分を送付する予定で、3 月末には奇数年齢の方を対象に送付する予定である。クーポンに関しては乳がん・子宮頸がん・大腸がんを送付していて、未受診者への受診勧奨については乳がん・子宮頸がんの分を発送する予定である。その他の取り組みについては 7 月 21 日に市役所駐輪場 8 階で乳がんに関する講演会を開催する予定である。パンフレットの一番下に申し込み方法を記載しているがもし皆様の中で話を聞きたいと思

わられる方がいたら健康づくり推進課にご連絡をいただければ申し込みの手続きをとらせていただきたいと考えている。

#### 《中央区保健子ども課》

中央区では新規取り組みとして生活習慣病ネットワーク連絡会というものがあつてこの会の中では特に特定健診の啓発について先生方とのお話をすすめている。がん検診の啓発についてもこのネットワーク連絡会の中で広角的な連携や PR ができるかということで打ち合わせもしていきたいと検討している。もう一点は校区を担当させていただいている保健師としてそれぞれの健康まちづくりの活動の中で色々なイベントや多くの世代が集まる機会を地域の役員の方に相談しながら、クイズ形式やリーフレットの配布等を行いがん検診の啓発を行ってきた。今年度はそれに加えて一部の地域では校区の中でのつながりを活かした検診受診の啓発を行っている。これはご自身の健康行動が他人から大いに影響を受けているという考え方の基に、より親しい友達からの丁寧な検診の勧めを 3 名の方にしてもらうというものである。具体的には特定健診と大腸がん検診が同一の医療機関で受診できるのでその二つをセットにして PR の勧めをしていただくという取り組みをした。ただ口頭で受けてくださいという勧めだけではなかなか難しいので検診受診の必要性がわかるパンフレットやチラシを、景品とセットにして親しい方へ配っていただくということをやつた。受診勧奨の簡単なレクチャーを保健師の方から実施した。このように行政から勧めるだけではなく住民から住民にということでより親しい方からの勧めで関心を持ってもらつて地道に取り組みを勧めていきたいと思っている。

#### 《東区保健子ども課》

東区でも中央区と同様に様々な会議やイベント等を活用してがん検診や特定健診の啓発を行っている。東区は区の中でも人口が最も多いという特徴もあり、地域に出向いて効果的に啓発をするためには若い世代から啓発を進めたいということで、昨年度から実施している 1 才半健診、3 才健診の時に保護者一人一人に対して啓発するという方法をとっている。年間 3,800 人程の対象の子どもがいる。また先程山形委員からもお話があったように健康まちづくりの活動の中で健康づくりサポーターを養成して活動を行っている。平成 25 年度は約 20 名が養成講座を修了され、現在フォローアップ研修を実施している。平成 26 年度も養成講座が開始され申し込みが 20 名程度あり、いろんな方と共同で進めていけたらと考えている。実際にサポーターの方とは先日の食と健康フェアでも体力チェックのブースを設けてサポーターの方が企画・運営され地域の参加された方にがん検診のことだけでなく健康全般に関する情報提供を行っていただいたところである。今後東区としては 8020 推進員さんや食生活改善推進員さん、介護予防サポーターさん、健康まちづくりサポーターさん、健康に関するボランティアさんと一緒に情報発信をしたいと思っている。働き盛り、子育て世代の若い世代の方については区のホームページや Facebook や地域の広報誌を活用しながら 9 月のがん征圧月間や日曜がん検診の時期に合わせて集中的に情報提供を行っていきたいと思っている。

### 《西区保健子ども課》

西区からは3点に絞って取り組みについてご説明をしたいと思う。1点目は西区では校区単位の健康まちづくりが順調に進んでいて16校区のうち13校区で校区の中に健康づくりを考える組織を作っていただいている。行政の方から組織の中に校区の健康課題について提示させていただき地域の方と一緒にになってどういった活動をしていくかという話を各校区で進めさせていただいている。先程浦本委員の方から城西校区の具体的な取り組みについてご説明していただいたが16校区各地域にいろんなイベントがされているのでその中でいろんな啓発活動を24年度から継続してさせていただいている。どういう取り組みをするかというのは地域の方々と一緒に計画を立てている。

2点目は生活習慣病ネットワーク連絡会の取り組みについてだが、西区管内の特定健診とがん検診を実施している医療機関の先生方と健康まちづくりの各校区と行政で連携をして、今年度は秋ごろに受診勧奨の強化月間を作ろうという話が持ち上がっている。それが具体的に決まれば情報を共有して具体的な活動を展開できるものと思っている。

3点目として、西区は特定健診の出張型集団検診を実施しているところが多く昨年はひとつの校区で健康まちづくりを基にして胃がん検診と特定健診の集団検診を同時に実施した。そういった校区は今年度も引き続き実施するが他の校区でもそういった取り組みができるように推進していかなければならないと思っている。

### 《北区保健子ども課》

北区では先程高平台校区の西委員の方から地域の中の自治会連合会・自治協議会と協力しながら進めているお話を聞いた。がんに関する正しい認識と理解の所にも書いてあるが各校区の行事等の場に啓発のコーナーを設けさせていただいたり、社協だよりや自治協だよりなどでがん検診や特定健診の啓発を載せていただいている。また重点的に取り組んでいくものについてご説明すると、北区でも若い世代の方たちの啓発が重要であるところで、保育園等の保護者会などでがん検診・特定健診の周知をさせていただいている。これも全校区一斉にというわけにはいかないが、ひとつずつ増やしていくことでやっている。また6位の職域と保険者との連携というところで、北区ではもともと商工会や農協と一緒にいろんな行事に取り組んでいるということもあり農協の検診の周知の機会にがん検診や特定健診の周知を入れてもらったりしている。また大きな企業に働きかけを行ってそちらの社員の方やその家族の方、パートの方々へ受診勧奨をできないかとご相談しようと思っている。

### 《国保年金課》

国保年金課では国保の医療費から見てがんの医療費はどのくらいかかっているのかという点で申し上げると約1割の医療費をがんが占めている。もう少し具体的に申し上げるとひと月にがんだけで約5億円程度の医療費がかかっていて年間にすると60億ということで医療費適正化の面から言っても早期発見というのは大切だと考えている。また国保の方で行っている特定健診の受診率は27%程度ということでおよそ4人に1人くらいしか受け

ていないということである。なぜ受けていただけていないかという理由のひとつとして、特定健診だけか、という声もありがん検診も一回で受けられればいいということで充実した健診、魅力ある健診にするためにも環境を整備する必要があると思っている。国保年金課の方では6位に書かせていただいている職域と保険者との連携という点で健康づくり推進課と連携して充実した健診を受けていただけるようにがん検診と特定健診の同時開催という形の集団検診を広めていきたいと考えている。実状としてはがん検診の実施機関と特定健診の実施機関の調整というところがなかなか難しく簡単にはいかないがひとつでもそういう健診が広められればいいと思っている。今年は川口校区や日吉校区の集団検診で新たにがん検診との同時開催が実現しそうである。また協会けんぽとも連携して市役所でのがん検診と特定健診の受診が11月に実現しそうである。このように少しでも皆さんのがん検診の環境を作っていくながら進めたいと考えている。

#### 《医療政策課》

当課が行っているがん対策はがん検診の受診率を上げるという直接的な取り組みではなく、がんになった患者さん及びそのご家族に対する取り組みを行っている。毎年1月には当課とくまもと医療都市ネットワーク懇話会の共催で医療市民講演会を開催している。平成24年、25年度は市民の関心が高いがんをテーマとした講演会を開催し、市内のがん診療連携医の医師より最新の治療法を分かりやすく、また治癒率を上げるには早期発見が大切であることも含めて講演していただいた。がんに関する講演が2回続いたので心疾患と脳血管疾患をテーマとしたものを行う予定である。市民講演会は別のテーマにはなるが、他にもがん関連のイベントは日本がん治療学会やキャンサーネットジャパンによる市民公開講座が開催される。講演では最新のがん治療法やがん患者さんの体験談、検診受診率向上の内容も盛り込まれている。また出前講座「がんになっても暮らし生きられる」ではがん経験者のお話の中で早期発見、検診の重要性を呼びかけている。このように直接的ではないが健康づくり推進課と連携を図りながら各種イベントで啓発に力を入れている。

#### 《感染症対策課》

当課では、昨年度から子宮頸がんワクチンが法に基づく接種に組み込まれたことで対象者である中高生の女子に通知文を出して勧奨と共に子宮頸がん検診の必要性を啓発してきた。しかし、昨年の6月にワクチンの積極的な接種を控えるという国の勧告がありこの活動ができなくなっている。国が今、再開についての検討を重ねているので勧奨再開となり市民の方が安心して接種が受けられるようになつたらまた、予防接種の勧奨と共に検診の必要性についても啓発していきたいと考えている。

#### 《大森会長》

これまで発表していただいた計画を実際に実施して、連携を取り未受診の方々にいかに関心を持ってもらい受診していただく機会を設けるかというところを深めていけば受診率向上につながるのではないかと思うので進めていきたいと思う。特に若い方への啓発も必要になってくると思うのでそちらの方も強化していきたい。

### 《小山委員》

がんの受診率を上げるというのがひとつの目標だが、予防するという立場からいえば地域の皆様の活躍が非常に重要で食や運動などやらなければいけないことがたくさんある。肝炎ウイルスについても感染症の問題がある。色々議論しているがどうして検診を受けないといけないのかということから話をしないといけない。がん検診がなぜ必要なのかということを個人の問題も含め、また熊本市として考えていかないといけない。がん検診を受けたら医療費がこれだけ下がるということをきちんと出して欲しい。検診を受けた人の保険料がどうなったのかということを突合していけば、いかに検診が大事かということがわかる。検診を受けないということだけを言っていたのでは伝わらないと思う。また後期高齢者については国の方針に入らないということで、熱心な高齢者からは不満が出るかもしれない。熊本市は政令指定都市なのだから国が何と言おうと熊本市独自での方針を作つて良いのではないだろうか。国があまりやらないようなことをやってみて良くなつたということを他の県や市にアピールするくらいのことをやって良いのではないだろうか。今のように厚労省が言ってきたことをやっているだけでは伸びないと思う。受診率も伸びないし、市民の意識も変わらない。市民の意識を改革するということが大事なのではないか。

### 《大森会長》

熊本市がパイオニア的に全国に先駆けてできるように取り組んでいきたいと思う。検診を受けることで医療費が下がるというように突合させたデータをとっていくことも重要なと思う。

### 《斎藤委員》

私ども保険者は諸企業を担当しているが、一保険者が検診も健康づくりも適正化も担っている。協会けんぽは財政的に非常に苦戦していて、二兎を追いながらやっているという状況である。今熊市の話を色々聞いていると、健康づくりやがん検診は健康づくり推進課、医療費は国保年金課というように縦割りの部分がある。私どもの特定健診でいうと、熊本市の国保の特定健診と協会けんぽの特定健診では約10%位受診率に差異があり、国保の方が10%程高い。協会けんぽ加入者の被扶養者の健診率はなかなか伸びないというのが正直なところである。何度も言っていることだが、是非特定健診とがん検診の同時検診をやっていただきたい。今度11月29日に一緒にすることになっているが各区でもこの集団健診が進められていて、がん検診に惹かれて特定健診も受けようという誘因というものが強いということもあるので一緒にやっていくような環境ができればいいと思っている。また委員の方々から健康まちづくりセンターなどの話が出たが、その中にも協会けんぽ加入者の方や共済加入の方、自営業の方もいらっしゃるだろうから連携し市民目線で、検診の相乗りであったり、セットで受診できるような環境づくりをお願いできたらと思う。

### 《事務局》

これまでも今のようなご提言をいただいているので市としても縦割りのようなものは無くしていかないといけないと思っているし、物理的に難しく放置しているものについても前

向きに取り組んでいきたいと思っている。

《山口委員》

特定健診の受診率は18%ということで、協会けんぽは特定健診の受診勧奨をどの程度されているのだろうか。確かに以前は会社から申し込まないと来なかつたのが、今は全部に渡していらっしゃるということで、熊本市国保の場合には年に2、3回電話をかけていてお金もかけているのだろう。協会けんぽは先程おっしゃっていたように医療費も管理しているし受診させる費用もかかるだろうが、どの程度特定健診の受診勧奨をされているのかと思った。また、特定健診を受診したときにがん検診を受診するように勧めるようにしたいと思っているが、集団検診をしてくださいと言ったときに簡単にはできない。やっていける医療機関も限られている。その前に特定健診の受診率を高めることと、それに伴つてがん検診の周知を図るという両面からいいたほうがいいのではないだろうか。

特定健診の受診率が低迷している事に対する対策などはとつておられるのだろうか。

《斎藤委員》

私たちは熊本市内に拠点が一ヶ所しかないということ、また県内23,000事業所に徹底しないといけないというところに物理的なネックがある。健康経営という視点からも特に従業員の健康があって、それには従業員の家族の健康があっての健康経営というようにつながっていくことが理想である。

職域の事業主を通じて受診券を配っていたのを個別配送することにより受診率は5%伸びた。そのあたりの動きもあり徐々に上がってきた。ただ物理的に各市町村単位で勧奨をされているところまではなかなか行き届いていない。事業主を通じてしっかり従業員ご家族の方に勧奨していただくというやり方と、ダイレクトに伝えていくというやり方の両方を合わせて進めていかないといけない。物理的にお金の問題などもあるが、行政の皆様方と連携していく中で一步一步進めていく必要があるだろう。

《大森会長》

お互いに連携を強化して進めていくということでお願いしたい。

《浦本委員》

今日は熊本市のPTA協議会常任理事の城さんはいらっしゃっていないが、取り組み計画表の城さんのところを見ていただきたい。例として心の健康、体の健康をテーマに開催の中で、健康づくり推進課で計画の「啓発パネル」などを利用したお知らせの時間を設けるなどの提案ができれば、ということが書いてある。毎年PTAでは11月に保健科学大学で研究大会をやっていて、136校の各校5名ずつ参加していて非常に大きな大会である。できれば健康づくり推進課の方から働きかけていただきながら予防のための食生活やがん検診についての講演をしていただきたい。30~40代の方がたくさん集まるし校長先生、教頭先生などもいらっしゃるのでとても良い機会だと思う。是非、城委員の方に話を聞いていただければと思う。

《事務局》

直接お話をさせていただきたいと思う。

《小山委員》

今の話も含めて、やはりお金がかかるものだと思う。講師を呼ぶにも講師料が必要になってくる。その予算があるかというとそう簡単にはない。がん対策は産官学民がみんな一緒になってやらなければならない。熊本市としてがん対策に対して予算は組めるのか。これをやりたいといったときに、予算がなくてできないということではなにもできない。

《小山委員》

参考資料1の熊本市のがん検診の受診率について、これは各区ごとの受診率というのはあるのだろうか。あるのならそれを出して区ごとに競争させたらどうだろうか。そうすればみんなが張り切ってやっていくのではないだろうか。市民の中で、熊本市をがん検診受診率日本一にしようという運動があればもっと盛り上がると思う。そのため行政は誘い水を出してほしい。

《野間口委員》

私の提案の中で9位の若い世代への教育のところで、PTAの若いお父さんお母さんに医療費よりも教育費に予算を配分してもらいましょう、という呼びかけが有効ではないかということで書かせていただいた。先程国保年金課の方から年間60億円が医療費としてかかっているというお話をだったので、例えば検診受診率が5%上がったら医療費に換算すると何億円削減される、というように、みんなが達成できそうな目標を決めてもらってこれに向かってがんばりましょうといえばみんなが頑張るのではないかだろうか。それによって抑制された医療費で、例えば小中学校のトイレを洋式に変える予算にするというのはどうだろうか。今、小中学校のトイレは洋式が少なく、子どもたちは和式のトイレに慣れていないで我慢したりする。我慢するというのは大腸がんになりやすくなるから是非洋式のトイレを増やしてほしい。災害があったときに小中学校というのは避難所になることが多いお年寄りの方も洋式でないと不便で困っていらっしゃる。そういうこともあるので、是非医療費を抑えて洋式トイレを増やしてもらうと、子どもたちのためでもお年寄りのためでもある。そのように具体的な道筋を作ってやってもらうといいと思う。

《大森会長》

確かに医療経済的な効果を示すとより一層啓発につながるのではないかと思う。

《小山委員》

健康経営というのはまさにそのとおりで検診をしてみんなが健康になったら会社が儲かる。一人一人の健康ももちろん重要だが会社自身の生産性が上がるから儲かるということである。市民みんなが健康であれば熊本市の財政が上がるということである。そうするといろんな所にお金が使えるようになる。そういう意味でも熊本市民が盛り上がりなくてはならない。

### 《大森会長》

私の教室で COPD 啓発をやっていて、その医療費や受診料、生活習慣や勤務状態など様々な観点で一括して評価できるようなシステムを厚生労働省の研究費をいただきながらやっているところなので、そういう方面にも力を入れていきたいと思う。

次に、取り組み計画における今後に進捗管理について事務局からご報告していただきたい。

### 《事務局》

今日、皆様にお出ししている今後の取り組み計画は、委員の皆様の分と庁内関係各課の分の進捗管理をどの様に進めていくかということを整理してスケジュールとしてお示ししている。まず平成26年4月から庁内各課においては計画に基づいた取り組みの推進を行っている。次に本日のがん部会においては皆様と共に庁内及び推進委員の方の計画の確認をさせていただいた。委員の皆様におかれましては計画に基づき可能な部分については推進を進めていっていただきたいと考えている。また8月に健康くまもと21推進会議を予定している。そこで資料1-1、1-2の取り組み計画表をご提示させていただく予定としている。その後は平成27年2月ごろに皆様に取り組みを進めていただいた26年度の取り組み実績について進捗状況の調査を予定している。年度の途中になるがこの健康くまもと21推進会議の任期が昨年の委嘱から2年ということになっているので、この時期に取り組み調査をさせていただきたい。26年度の実績について平成27年度の健康くまもと21推進会議で報告する予定としている。また連携希望シートというものを今回作成させていただいている。今後皆様に取り組みを推進していただくにあたって各団体のみでは難しい項目があった場合、例えばパンフレットを使って周知をしたいがパンフレットが手元に無いといった時や、ホームページに載せたいがどういった記事を書いたらいいか分からぬというように各自の団体では難しいという時に互いの関係機関が連携できるようにと考えこのシートを作成した。主に推進会議の委員の皆様と庁内関係各課を想定して作成しているので、この例に沿って記載していただき、もしどういう部署に依頼していいのか分からない場合は空白にして、必要な支援内容や希望する時期、担当窓口をなられる方の連絡先を記入していただいて健康づくり推進課までFAXかメールで送っていただくと、こちらの方から委員の皆様にご相談させていただきながら支援させていただければと考えている。すべてのご要望に沿えない項目もあるかとは思うがご相談させていただいて進めなければと思っている。特に提出期限等は設けていないので、皆様ががんに関する取り組みを進めていかれる中で必要な時期に提出していただければそれに沿って御協力させていただきたい。

### 《事務局》

先程小山委員の方から今回お出しした資料が市の受診率ということで区について出ないのかということだったが、区についても、また各小学校区単位についても受診率が出せる状況である。各校区の保健師が色々な校区活動の中でお伝えすることができるし、自分の校区がどういう状況であるかということ、それが地域として課題であるかどうかということ

を考えていただきて何ができるかということだと思う。校区単位で可能なアクションを起こしていただけるきっかけになるための材料として使っていただきたいと思う。また実際にがん検診の受診率が低いとはいえ、23年度においてはがんが発見された方が150名いらっしゃる。そういう方が定期的に受診されているということであれば早期発見ということになり早めの治療ということで命拾いができたということと、医療費の面でも非常に軽減できたということで本人のQOLの向上にもつながるということである。そういう部分も色々な形でPRしていければいいので、そういう情報も集めていきたいと思っている。

#### 《小山委員》

校区ごとに一年一年の成績が出て行けば伸びた区とそうでない区が出てくるので、伸びた区は是非市長の名前で表彰してほしい。また「受けて良かったがん検診」という作文を募集すれば市民が応募するだろうから、熊日などと組んでやるということが必要ではないだろうか。熊本市がやって、市長の名前で優秀なものは表彰したり、校区ごとの競争をしたりしてほしい。

#### 《事務局》

この部会でそれぞれの委員さんから色々なご意見をいただくことはこれからやっていく中で活かせる案なので、受診率が低迷しているという現状の中で取り組みの実現に向けて進めていきたいと思っている。

#### 《大森会長》

是非皆様からいただいた意見を反映していきたいし、各委員の皆様には今後とも協力していただきたいと思う。

